



「そうだったんだ。
……わかったわ」

「お姉ちゃんが
その子とお話して
もう悪いことはしないで
つてお願いしてくるよ」

「だ、大丈夫なの？」

「任せて。」

「あなたのためだもの」

「それにアズキは生徒会長なんだから
校内のトラブルは放っておけないわ。
ね？」

「うん……」

「あ、ありがとう。お姉ちゃん」



クラスの不良にいじめられている——と、

あなたの相談を受けたアズキはその日のうちに彼らと話をつけにいった。

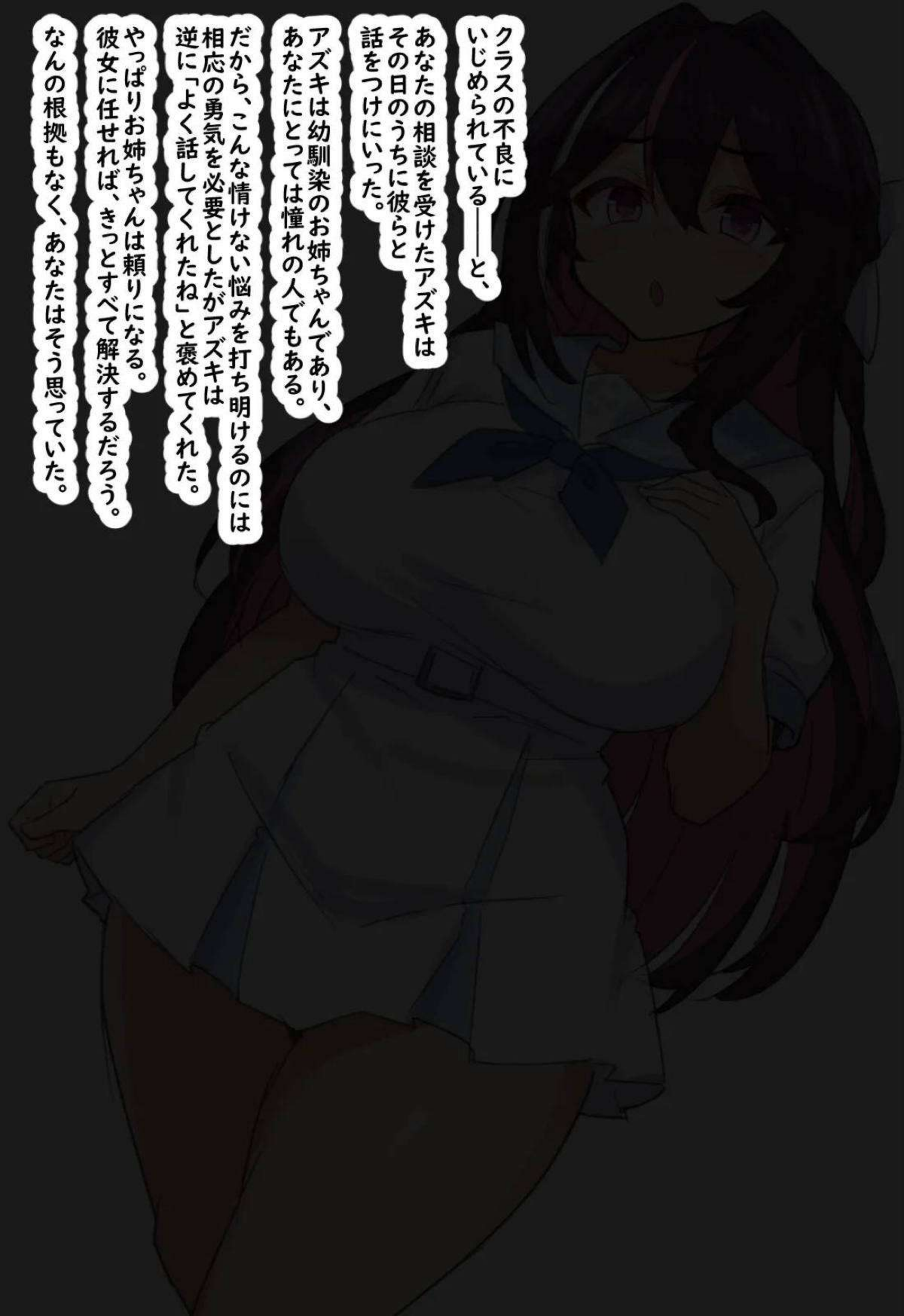
アズキは幼馴染のお姉ちゃんであり、あなたにとっては憧れの人でもある。

だから、こんな情けない悩みを打ち明けるのには相応の勇気を必要としたがアズキは逆に「よく話してくれたね」と褒めてくれた。

やっぱりお姉ちゃんは頼りになる。

彼女に任せれば、きっとすべて解決するだろう。

なんの根拠もなく、あなたはそう思っていた。



しばらくして——
アズキは戻ってきた。

よっぽど急いで来たのだろうか？
呼吸が乱れ、全身に汗が浮いているのが
見て取れた。

「あ……
おかえりなさい、お姉ちゃん。
ど、どうだった？」

「え、えっと……
大丈夫だった、よ……♡
その子、話してみたら案外いい子で……
もうキミをいじめたりしないって約束してくれたの♡」



「ほ、本当に？
すごいや、アズキお姉ちゃん！」

「う、うん……
本当に、すごかった……♡」

「え？」

「あ、ごめんなさい♡ なんでもないよ♡」

「そう？ ならいいけど……あ、お姉ちゃん。
ほっぺに糸くずがついてるよ？」

アズキは慌てたように、
口元に張りついてた「縮れ毛」のようなものを拭った。

「こ、こんなのどこでついたんだろ♡
あはは……教えてくれて、ありがとね♡」



それからというもの、
あなたへのいじめはぱったりとやんだ。
アズキの説得が効いたのだろう。

しかしどういうわけか

あの日を境にアズキの様子がおかしくなってしまった。

「もしもし？ アズキお姉ちゃん？」

『あつ……〇〇くん、どうしたの？』

「次の日曜なんだけど、勉強見てもらってもいいかな？
課題でわからないところがあつて」

『つ、次の、日曜？ えっと、うん、そうだね……ンほおッ♡』

「え？ お、お姉ちゃん？」

『ご、ごめんなさい♡
つ、次の日曜は……忙しくて、む、無理かもおお♡』

「そ、そつか。じゃあ、別の日は……あれ？」

別日の予定を聞き出す前に、通話がぷつと切れてしまった。

すぐに関け直したがその日はもう、アズキがあなたの電話に出ることはなかった。

いったいどうしたんだろう。

アズキが、あなたをここまで蔑ろにすることなど今までなかったのに。

何か嫌な胸騒ぎがしていた。

せつかくあいつにアズキ先輩の
オホ声聞かせてやろうと思ったのになあ
……よし、いっちゃかけ直すかw

おん!

卷

アズキがあなたの
ちんぽケースになっちゃったこと
あの子にバレちゃうよお♡

なら、先輩が誰と付き合おうと自由なんだし別にいいじゃんw

だいたいさ、
自分がいじめられてるからって
女に泣きつくとか情けねえよなあ

おん!

おん!

ま、そのおかげで俺は
いいオナホを
ゲットできたんだけどw

いやー、今思い出しても
ぞくぞくするぜ

全男子の憧れの的、
アズキ先輩の処女まんこを
レイプしたあのときの快感w

グ
グ
グッ

グ
グ
グッ

三日前……

おこめ
このままじゃ
腰が止まんねえ

いぢあつて
お願ひなすわ



「感謝しねえとなW
あいつのおかげで先輩とすんなり
二人きりになれたんだからよ」

「やつ、あんっ♡
お、思い、出させない、でッ♡
あんな、コトお……♡」

「なんだよ、照れんなってW
ハジメテだったのに鬼イきしまくったこと
まだ気にしてんの？」

「女なんてちんぽ突っ込まれたら
みんなあーなるんだからさ、
全然フツーだよフツーW」

「レイプちんぽ相手に
媚び媚び腰へこダンスしちまうの
なんてよくあることだよW」

「ち、違っ♡
そんなこと、してなっ……♡」

「してたる？
こっちはばっちり証拠の動画
撮ってんだよ。言い逃れできないぜW」

「ううう……♡
お、お願い……♡消して、それ……♡」

「こんなお宝映像消すわけねーじゃんW
その代わり、あいつにやもう
手出ししないって約束してやったら？」



ゼッ

ビュッ

ああん♡
らめええ♡

おーッ

オホオオ

ま、どのみち
こんな極上まんこ捕まえちまつたら
犯すのに忙しくてあいつに構ってる
暇なんかもうねえけどな……w

おら、中に出すぞ！

中はっ……
おっほおオオオオ♡

ぐうつ、これこれえ……
種付け決めてやったときの
まんこの食いしばりが堪んねえんだw
あー搾り取られるわあーw

おおお♡
んっほお……♡

ズルズル

は、はひい……
んじゅるるるるるる♡

は、はひい……
んじゅるるるるるる
れろ

そんなに俺のちんぽが
美味いか？ ん？w

ひゃい♡
とっても美味しいです♡

こ、これは、言わされてるだけ♡
彼のご機嫌を取らないと、
またあの子がいじめられちゃうから

だから……し、仕方なく
おしゃぶりしてるだけなの♡

アズキが……
あの子を守ってあげないと
いけないんだから……♡



あーあ、もう清楚の面影もねえなw
これが人気者の生徒会長様の
本性ってわけだ

エッロい顔で
しゃぶりつきやがって……
ちよっと前まで処女だったとは
信じられねえやw
くく、保存保存っ

や、やだ♡
撮らないで……れろ♡

顔隠すんじゃないよ
心配しなくても
誰にも見せないってw

ぐぽっ♡

しゃぶるるる♡



くううう！
マジかよこれ！

アズキ先輩のナマまんこ
使えるとか夢みてえだわ！w

おほオ♡

おっ♡んお♡
ほおおッ♡

やつべ、締まるっ…！
清纯そうな顔してるくせに
とんだ名器じゃねえかw

えん♡
えん♡

お♡

お♡

ぽん♡

ぽん♡

ぽん♡

ぽん♡

ぽん♡

ど、どう、して…ッ♡
このことは…誰にも
秘密って…♡

いやー
こいつ先輩の大ファンでさあw
一発でいいからやらせて
あげてよw

お前、こんなおいしいことになつてたならさっさと教えろよな

アズキ先輩は
ガードが堅いつて有名なのに
どうやって堕としたんだよ?

ま、ちよつとな……
二人きりになるチャンスがあつたからさ
軽うくレイプしてやったら
あつという間にこのザマよw

えん
えん

おっ
おっ

おっ
おっ

ぽん
ぽん

ぽん
ぽん

ぽん
ぽん

ぽん
ぽん

ぽん
ぽん

こんなちよろまんこ
実在すんのかつてくらい
爆速で堕ちて笑つたわw

ムービーに残してるから
後で見せてやるよ

あっ♡だめ♡
あんなの見せないでえ♡

そんなことより、アズキ先輩
あいつと比べて、どうなんだよ？
俺のちんぽの方が気持ちいいだろ？

お、どうなんだ？
答えてやれよ

え、えっと、それは……♡

えん
えん

おっ
おっ

おっ
おっ

……か、彼のおちんぽの方が
大きくて気持ちいいです♡

な、なにイ！？

わはは！聞いたか？
悪いな、粗チンくんw

ほら、正直に言えって



ちっ！
ンだよ、つまんねえ…なっ！

んはあぁあぁあぁあぁ—ッ♡

名前も知らねえ男のちんぽで
簡単にアクメ決めるヘンタイ女が
一丁前に選り好みしてんじゃねえぞ！
謝れオラ！

ご、ごめんなしやい♡

無責任種付けで即イキする
ヘンタイ女が偉そうにおちんぽ様を
格付けしてごめんなしやい♡

ビュッ
ビュッ

あーッ

あーッ♡

ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ

ビュッ
ビュッ

憂さ晴らしをするように
大量のザーメンがアズキの膣内に
どびゅどびゅと注がれていく

中に出すという確認も
宣言すらもなく

便器で用を足すのと変わらない
気軽さでアズキのおまんこに
精子がコき捨てられた……

















